



各地の砂鉄やさまざまな鉱物などが並ぶ会場。いずれも姫路市飾磨区阿成渡場

鎖製造の衣川製鎖工業（姫路市飾磨区阿成渡場）が運営する「鉄のふしぎ博物館」の開設7周年を記念したイベントが23日、同館で開かれた。夏休み中の子どもたちに鉄への興味を持って

ほしいと、衣川良介社長(70)が企画。日本各地の砂鉄の説明や磁石を使った工作などがあり、訪れた人たちは鉄や鉱物の世界にひたっていた。24日まで。
(川口洋光)

飾磨・衣川製鎖工業運営 博物館が7周年

鉄の不思議を体感

きょうまで記念イベント



家業の鎖づくりを子どもたちから見てきた2代目の衣川社長は、興味

社敷地内に博物館を設立し、見学希望者には無料で開放している。

館内には、神奈川県や鹿児島県で採取された砂鉄や鉱物のほか、古い貨幣やパソコン内の磁石など約200点が並ぶ。

イベントでは、衣川社長が、ほぼ正六面体の黄鉄鉱や六角すいすいの水晶を手で「自然にこの形になったんや」と自然現象の

イベントでは、衣川社長が、ほぼ正六面体の黄鉄鉱や六角すいすいの水晶を手で「自然にこの形になったんや」と自然現象の



磁鉄鉱に付いた磁石をはがそうとする子ども

不思議さを説明。アフリカに落ちたというギボン隕鉄も紹介し、来場者は磁石をくっつけたり、実際に持ち上げたりして形や性質を確かめていた。

また、磁石に付くものを探すコーナーも設置。焦げ茶色のクレヨンがくっつくこと、来場者らは「何で？」と、驚きの声を上げていた。

衣川社長は「鉄は身近だが、未知の部分も多い金属。その一端を体感してほしいと話している。普段は要予約だが、24日は予約不要。午前9時から午後5時。衣川製鎖工業 079・234・1515

イベントでは、衣川社長が、ほぼ正六面体の黄鉄鉱や六角すいすいの水晶を手で「自然にこの形になったんや」と自然現象の